



は せ がわ ゆき こ
長谷川 幸子

に ほん きょう さん どう つ し ぎ だん
日本共産党津市議団

住民の命と暮らしを守るために防災の強化を

問 防災、安全のまちづくりの基本的な考えは災害の発生を最小限に抑え被害の拡大を防止することである。地震・津波・台風・豪雨などは自然現象であるが、それを契機に発生する災害とは区別すべきであり、過去の災害の歴史も多くは人災である。海岸沿いに住み、近くに高い建物もなく不安を抱く住民の願いに応え、旧津市体育館跡地に避難タワーの設置を。

津球場改修工事に合わせ津波避難ビルに利用

答 旧津市体育館の周辺では、同施設の北側のパチンコ店の立体駐車場（3階、4階、5階、屋上）を津波避難協力ビルと指定しており、毎日午前9時から午後12時までの時間帯で避難が可能となっている。

また、西側では国道23号を渡った百五銀行岩田本店棟を津波避難ビルに指定しており、24時間いつでも避難が可能となっている。

さらに、今後、津球場公園の野球場の改修工事に合わせバックネット裏スタンドを、津波避難ビルとして利用できるよう、関係部局と調整していく。

●その他の質疑・質問●

- 市長の掲げる子育て1丁目1番地の充実を求めて
 - 子どもの医療費の窓口無料は中学校3年生まで実施を
 - 市独自の奨学金制度の創設を
 - 子どもの権利条約批准から25年。子どもの貧困・虐待など大人の責任の再確認を
- プラスチックごみ問題の解決に向け津市としてできることはなど



▲市民一人一人にできるプラスチックごみ削減生活の提起を



た なか かず よし
田中 千福

けん と
県都クラブ

認知症初期集中支援チームの現状と今後は

問 家族の訴えなどで認知症が疑われる人や、認知症の人、その家族を医療と介護の専門職が訪問し、状況を把握して初期支援を集中的にサポートする「津市認知症初期集中支援チーム」を設置しているが、その数と、相談件数は。

また、今後の取り組みは、どのように考えているのか。

相談・訪問支援のさらなる充実を図る

答 津市地域包括ケア推進室内に、津、河芸、芸濃、美里、安濃、香良洲地域を担当するチームを、津久居地域包括支援センター内に、久居、一志、白山、美杉地域を担当するチームの計2チーム設置している。また、相談件数等は、平成29年度は計166件、平成30年度は計175件であった。平成30年度に訪問支援を行った100件の中で、これまで医師の診断を受けていなかった61件のうち、42件が医師の診断を受け、さらに、介護サービスを利用していなかった88件のうち47件が介護サービスの利用につながった。

今後も早期診断・対応の必要性を十分認識し、充実を図る。

●その他の質疑・質問●

- 農業・農政について
 - 農業経営法人支援事業とは
 - 本市の農業法人が耕作をする耕地面積とその割合はいくらか
 - 中間管理機構を活用した受委託の現状は
- 成年後見制度について
 - 津市成年後見サポートセンターの相談状況は
 - 成年後見を申し立てた動機はどのようなものか



▲認知症初期集中支援チームが入る津市地域包括ケア推進室